

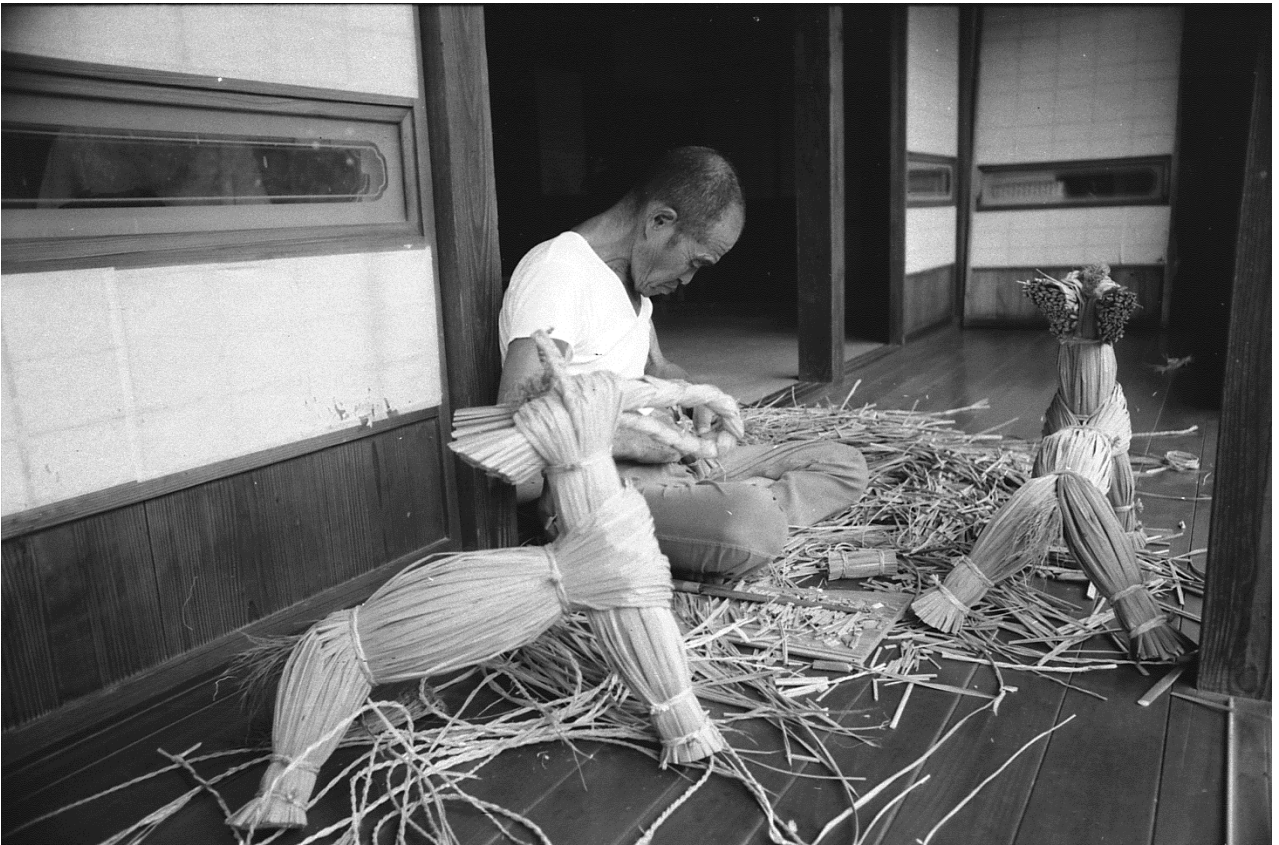


平川の祭り

七夕馬を引いて

—七夕まつり—

平川の七夕まつりは8月7日に行われます。前日、願い事を書いた短冊などで飾り付けた「笹飾り」と真菰の「七夕馬」を作り庭先に飾ります。当日の朝、子どもたちは七夕馬を引いて水路で真菰を刈ります。真菰は七夕馬の背に担がせて自宅に帰り、笹飾りのもとに敷並べ、そこに身体を清めた七夕馬をつなぎます。七夕馬には水とお酒、蒸かし饅頭を供えます。一仕事を終えた子供たちも蒸かしたての饅頭の味を楽しみます。夕方、笹飾りは利根川へ流し、七夕馬は氏神様に納めます。



七夕馬を作っているのは故大野道太郎さん（孔一さんの祖父）です。七夕馬は縁あって茨城県立歴史館に収蔵されます。昭和49年、本県で開催の「第29回国民体育大会」に出席された昭和天皇・香淳皇后、上皇・上皇后両陛下が歴史館を視察された際に記念品の一つとして贈られたとの逸話が残されています。



この写真は今から約50年前（昭和48年頃）に大野さんがNHKの番組「明るい農村」の取材を受け、近所の子どもたちを集めて祭りの様子を再現した時のものです。



水路で刈った真菰は 2 束に分け七夕馬の背の左右に担がせます。この頃には少子化も進み七夕馬を作る家庭も少なくなっていました。写真の子どもたちも勝手にわからずに……いるようです。



七夕馬の手綱を引いて帰宅します。当時は舗装道路も少なく上手に引かないと真菰も馬も土だらけになってしまいます。帰宅すると、七夕馬から真菰を下して近くの用水路や水道で体を洗い清めます。



笹飾りの下に刈ってきた真菰を敷並べ七夕馬をつなぎます。七夕馬には水やお酒、蒸かし饅頭が供えられます。何台ものカメラの前で緊張気味ですね……上手くできたかな？



昭和 60 年頃、別のお宅での飾りつけの様子です。七夕馬の姿形は家々で異なります。供える蒸かし饅頭の作り方も粒あん、こしあん、味噌饅頭など家々で違い、子どもたちは、ご近所からのお裾分けを楽しみにしていたものでした。

同じような七夕馬の行事は近隣の県でも行われています。平川の七夕馬の由来は分かりませんが、豊作や芸事の上達など願い事の祈願、農耕の馬や牛への労りや子どもたちに働く

ことの大切を伝えるためのものだったのかもしれない。



笹飾りは子どもたちの手で夕方の利根川に流されます。



資料提供：平川の皆さん（敬称略）

大野孔一 篠田真由美 椿 公子

千葉県立房総のむら

茨城県立歴史館

制 作：平川を守る会（2021.07.25）